

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：34427

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H00543

研究課題名（和文）近現代における環インド洋熱帯地域の複数発展経路 - 発展と低開発の複眼的視野の中で

研究課題名（英文）Multiple Development Paths of Tropical Regions in the Indian Ocean Rim during the Modern period: Development or Underdevelopment?

研究代表者

脇村 孝平（Wakimura, Kohei）

大阪経済法科大学・経済学部・教授

研究者番号：30230931

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 23,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀から20世紀半ばまでの時期に限定して、熱帯アジア（東南アジアと南アジア）の経済発展の様相を究明することを目的とする。その中で、特に人口変動に着目しつつ、経済発展という視野からこの時代の経済史的な事象を再検討した。具体的には、19世紀以降、この熱帯アジアの一定の部分において、「人口革命」とでも称すべき非常に顕著な人口増加が起こったことに注目しつつ、一人当たりの所得の増加がほとんど見られなかったけれども、顕著な人口増加が起こったことは、熱帯アジアにとっては分岐点とも言うべき歴史的な変容過程、すなわち外国貿易と商業の発展に起因する経済発展が起こっていたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果として、脇村孝平編『近現代熱帯アジアの経済発展 - 人口・環境・資源』（ミネルヴァ書房、2024年3月）と題する成果論集を刊行した。また、International Conference, 'Debating Economic Development in Tropical Asia'と題する国際会議（2024年3月29日～30日に、慶應義塾大学三田キャンパス）を実施した。

研究成果の概要（英文）：This study aims to explore the economic development of tropical Asia (Southeast Asia and South Asia) from the early 19th century to the middle of 20th century, mainly focusing on population changes. Specifically, it highlighted that a very significant population increase, which could be called a 'demographic revolution', occurred in certain parts of tropical Asia from the early 19th century onwards. Our conclusion is as follows. Although there was not much increase in per capita income, the significant population increase meant a historical transformation process that could be called a turning point for tropical Asia, namely economic development resulting from foreign trade and commerce.

研究分野：アジア経済史

キーワード：熱帯アジア 人口 経済発展 人口革命 外国貿易 米作 資源制約 複数発展経路

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

20 世紀後半、東南アジアそして南アジアという、アジアの熱帯地域における経済発展が大きく進展した。さらに、21 世紀にはサブサハラ・アフリカにおける経済発展の進行が予想されている。熱帯は太陽エネルギーの大半を吸収し、大気や水(海流)の動きを通じて、温帯などにその一部を配分している。その意味で、熱帯は、地球規模での水・熱循環の中心である。また、熱帯においては生物の活動も非常に活発であり、いわゆる「生物多様性」の程度も突出している。熱帯は生物資源の宝庫なのである。このように、熱帯は地球環境の基軸をなしているが、今日におけるアジア・アフリカの熱帯地域における経済発展の高度化がいったい何を意味するのか、長期の歴史的視野から考える必要性を感じていた。

しかしながら、過去を振り返ってみると、実は熱帯の自然環境そのものは、地域の経済発展にとって決して有利な条件ではなかったことに気づかざるをえなかった。少なくとも 18 世紀末まで、熱帯地域の大半は人口稀少地域であったことにそれは示されている。また、19 世紀のアジアおよびアフリカの熱帯地域は、一次産品を輸出しつつ、温帯の欧米諸国から工業製品を輸入する国際分業の関係を形成した。言うまでもなく、こうした事態の進行は、欧米諸国の植民地支配を受ける過程でもあった。通説的には、こうした過程は、これらの地域に「低開発 (underdevelopment)」という事態をもたらしたとされてきた。事実、19 世紀初頭以来、20 世紀の中葉まで、熱帯地域と温帯地域の間には、いわゆる「南北格差 (north/south divide)」という大きな経済格差が広がったことは確かである。

2. 研究の目的

本研究が提起した学術的な「問い」は、19 世紀初頭以降の約 150 年間に、熱帯地域の経済的変容過程が如何なるものであったのかを、熱帯の自然環境に留意しつつ究明するところにあった。その際、まず認識の大前提として、19 世紀に熱帯地域の多くでは、「発展 (development)」の過程を経験したという事実に着目した。どのような意味で「発展」と言えるのか。それは、一部の熱帯地域で、顕著な人口増加を経験したという史実を指している。熱帯地域の多くは、もともと人口稀少な世界であったが、かかる顕著な人口増加は、特筆すべき事態であったからである。

本研究において、主に人口変動に注目しつつ、19 世紀初頭以降の約 150 年間の熱帯地域における「発展」と「低開発」の両方の契機を考察するという研究目的を設定しつつ、具体的には、以下の三つの研究課題を設定した。

研究課題 1：熱帯の自然環境

熱帯地域特有の自然環境に起因する制約要因に着目し、これらの地域の経済発展に対して如何なる影響をもたらしたかを、環境史的な視野の中で考察すること。

研究課題 2：経済発展 - 人口変動に着目して

熱帯アジアの一部では、19 世紀に大きな変容過程が起こった。前例を見ない人口増加が起こったのである。あえて言えば、熱帯地域における「人口革命」とも言える現象であった。いったい如何なる構造的変化によって、かかる事態がもたらされたのかを解明すること。

研究課題 3：資源制約の問題

しかしながら、その後、熱帯アジアの多くの地域では、ある種の「資源制約の壁」に直面した。こうした状況は、上記の「人口革命」現象とどのように関連しているのかを明らかに

すること。

3. 研究の方法

その際、インド洋を取り囲む三つの熱帯地域、すなわち東南アジア島嶼部、南アジア、サブサハラ・アフリカの経済的変容過程を、比較および連関を問う形で進めた。具体的には、以下の通りである。

東南アジア

一次産品（コーヒー、パーム油など）の生産・輸出の態様と人口増加の関連を問う形で、ジャワ（大橋厚子）とスラウェシ（太田淳）の事例が検討される。ジャワの場合は「強制裁培」制度、スラウェシの場合は自主的な耕作の形で、一次産品生産が行われたが、それが社会にどのような影響を与えたのか、出生率への影響に焦点を合わせて考察する。加えて、ジャワの事例では、急激な人口増加が招いた帰結として、「インボリューション」の問題も検討される。ジャワなどにおける急激な人口増加は米作の普及・改善による食糧増産が無ければ可能ではなかったが、熱帯雨林地域を多く含む東南アジア島嶼部における食糧生産の態様を土壌論との関連で問う（祖田亮次、藤田幸一、脇村孝平）。東南アジア島嶼部のうちの人口稀少地域への、インド（杉原薫）および中国（木越義則）からの労働供給（移民）の問題を、地域の人口変動との関連で明らかにする。

南アジア

南アジアは、ガンジス（ガンガー）川流域など、熱帯地域の周縁部にありながら、古代以来、人口稠密な世界を形づくってきたので、地域の固有性の問題を、長期的発展径路の究明という形で考察する（田辺明生、小茄子川歩）。19世紀の南アジアにおける人口変動の全体像を首尾一貫した形で考察する。特に、その前半における人口増加の要因が何だったのかを、死亡率および出生率の変動の両側面から検討し、さらにその第四四半世紀に見られる飢饉・疫病の頻発による人口の停滞現象を解明する（脇村孝平）。こうした人口変動を左右した重要な要因として、19世紀の一次産品生産・輸出の増加が当該経済に与えた影響を検証する。すなわち、貿易の変動がどれほど経済全体の動向に影響を与えたのかを明らかにする（神田さやこ、谷口謙次）。人口変動を根底で規定する要因として、南アジアの大半の地域は、熱帯地域周縁部に位置する半乾燥地帯である。水資源の確保が食糧生産の成否を決定するが、灌漑の動向を含めて農業技術の特質を解明する（藤田幸一、佐藤孝宏）。インド洋の中心に位置し、相対的に人口稠密だった南アジアは、19世紀において、インド洋の東西に位置する東南アジアとサブサハラ・アフリカ（東アフリカ）に対する労働供給（移民）の源泉であった。ここでの問いかけは、プッシュ要因の内実とその時期的変化を検証することにある（杉原薫、大石高志）。

サブサハラ・アフリカ

主に東アフリカに限定されるが、20世紀前半に英領東アフリカで行われた植民地官僚・科学者による農学研究に基づいて、熱帯の自然環境と農業技術について検討する（水野祥子）。逆に西アフリカに限定されるが、一次産品（パーム油）の生産と輸出が当該社会に与えた影響を検証する（小林和夫）。19世紀のサブサハラ・アフリカにおける人口変動（ほぼ停滞的）を、先行研究に基づきつつ明らかにする。また、それを決定した重要な要因として、この地域における熱帯病（特に、マラリア）の問題を明らかにする（脇村孝平）。また、19世紀のサブサハラ・アフリカにおける人口変動を決定した要因としての奴隷制について、先行研究に基づきつつ明らかにする（田辺明生）。

4. 研究成果

期間中、新型コロナウイルス感染症のために、海外における資料調査や研究交流の実施が阻害され大きな影響を受けたが、予算執行の繰り越しなどが認められ、以下のような研究成果を実現することができた。

成果論集

脇村孝平編『近現代熱帯アジアの経済発展 - 人口・環境・資源』（ミネルヴァ書房、2024年3月）と題する成果論集を刊行した。

国際会議

International Conference, 'Debating Economic Development in Tropical Asia: Historical Pathways, Environmental Constraints and Population Growth と題する国際会議（2024年3月29日～30日に、慶應義塾大学三田キャンパス）を実施し、この会議に提出された英語論文を基に、英文の論文集の刊行を目指している。

これらによって、上記の研究課題に対して、以下の諸点が明らかとなった。詳細は、上記の成果論集に示されている通りである。

研究課題1に関して

熱帯地域の多くは、18世紀末までは、一部の例外を除くと、疾病環境（熱帯病の存在）そして食糧生産にとっての土壌の貧しさという、二つの自然環境要因による制約性のために、人口が稀少な世界であった。本研究では、熱帯病に関する医学的研究、熱帯農業に関する農学的研究なども視野に入れつつ、制約要因としての熱帯の自然環境について考察した。

研究課題2に関して

この時期における世界貿易の拡大とともに、熱帯アジアでは、一次製品の生産と輸出に特化する形で、欧米諸国（温帯地域）との間に国際分業関係を形成した。このような外国貿易の波及効果として、出生率の上昇による人口増加が誘引された可能性がある。確かに、こうした事態は、一人当たりの所得の増加をともなわない「外延的（extensive）」な成長であったかもしれないが、特筆すべき事態であった。

研究課題3に関して

南アジアの場合には、19世紀末から20世紀前半にかけて、具体的には、飢饉と疫病が頻発し、人口増加率の低下を招いた。そのみならず、南アジアおよび東南アジアの多くの地域では、20世紀の前半に、「インボリューション」と呼ぶべき貧困化の過程を招いた。特に、1930年代には貿易の縮小という現象が重なって、状況が著しく悪化した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 太田 淳	4. 巻 89-4
2. 論文標題 海域東南アジアの「18-19世紀転換期」と近代への接続	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 391-406
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20624/sehs.89.4_391	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota Atsushi	4. 巻 12-1
2. 論文標題 “ Introduction, ” SPECIAL FOCUS Environment and Public Welfare in the Creation and Development of Economic Infrastructure in Southeast Asia, c. 1800-1930: Currency Supply, Forest Control, and Rail Transport	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/seas.12.1_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Fujita, K., A. Ohno, and K. Vatta	4. 巻 58-5
2. 論文標題 Contrasted Agrarian Change in Punjab, India: Case Study of Two Villages in Ludhiana and Jalandhar Districts	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Economic and Political Weekly	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Hisayuki, Matsumoto Jun, Akasaka Ikumi, Tsukahara Togo, Ota Atsushi, de Jong Alice.	4. 巻 2022a
2. 論文標題 Long-term variability of South China Sea summer monsoon onset using meteorological data in the ship logs.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the General Meeting of the Association of Japanese Geographers	6. 最初と最後の頁 106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shoko Mizuno	4. 巻 8
2. 論文標題 Hybrid forestry practices in British colonial and postcolonial forestry networks	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Review of Environmental History	6. 最初と最後の頁 135-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22459/IREH.08.02.2022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田幸一	4. 巻 58-2
2. 論文標題 ミャンマー・モン州におけるパラゴムの生産・加工・流通構造 その歴史・現状と将来展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 241-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.58.2_241	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石高志・曾土才	4. 巻 87-2
2. 論文標題 近現代横浜・神戸における移民の多様性:その類似点と相違点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 155-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20624/sehs.87.2_155	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小茄子川 歩	4. 巻 -
2. 論文標題 人文知のフォロンティア& インダス文明は「国家」にならず	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都新聞	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脇村 孝平	4. 巻 67
2. 論文標題 疫病の地政学 - 19世紀のコレラパンデミックと検疫問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 41-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.67.4_41	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sayako Kanda	4. 巻 9-1
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Review of World Histories	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22879811-12340082	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木越 義則	4. 巻 85(4)
2. 論文標題 近代中国における一次産品輸出産業の形成と発展	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 23-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小茄子川 歩	4. 巻 -
2. 論文標題 亜周辺の特質 交換様式・環境多様性・地政学的条件からみたインダス文明の社会構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の考古学3	6. 最初と最後の頁 247-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 和夫	4. 巻 85
2. 論文標題 19世紀の西アフリカにおけるパームオイル生産と輸出－W.A. ルイスの「熱帯の発展」論・再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 7-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20624/sehs.85.4_361	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田辺 明生	4. 巻 第114号
2. 論文標題 反人種差別と靈的普遍主義 - - 日印ナショナリズムの交差と分岐	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 159-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 脇村 孝平	4. 巻 42
2. 論文標題 コロナ危機と「スペイン風邪」 - 歴史から何が分かるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間会議	6. 最初と最後の頁 114-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脇村 孝平	4. 巻 第120巻第2号
2. 論文標題 「アジア経済史」の形成と構造 - 私的「回顧と展望」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko OHASHI	4. 巻 50-1
2. 論文標題 The Genesis of Local Dutch East Indian Administration: The Priangan Highlands in West Java, 1740-1830	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Forum of International Development Studies	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/forids.50.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 脇村 孝平	4. 巻 8
2. 論文標題 書評：渡辺昭一編著『冷戦変容期の国際開発援助とアジア—一九六〇年代を問う』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際武器移転史	6. 最初と最後の頁 157-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脇村 孝平	4. 巻 267
2. 論文標題 書評：渡辺昭一編著『コロンボ・プラン - 戦後アジア国際秩序の形成』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋史学	6. 最初と最後の頁 77-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計44件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 太田 淳
2. 発表標題 植民地期西ジャワ農民の環境対応：近代灌漑の導入と米不作をめぐるふるまい
3. 学会等名 歴史学会大会シンポジウム2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall, Irrigation, and Rice Cultivation in West Java in the 1900s
3. 学会等名 the International Conference of the History of Science in East Asia (ICHSEA)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Economic History and the Chinese Century
3. 学会等名 JSSEAS & NIHU-MAPS Joint Conference: Southeast Asia as Critical Crossroads: Dialogues with Anthony Reid
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall and Rice Cultivation in West Java in the 1900s
3. 学会等名 the Seventh Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall and Malaria in Batavia, 1911-38
3. 学会等名 the 2023 Association for Asian Studies (AAS) Annual Meeting
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall and Malaria in Batavia, 1921-38
3. 学会等名 The International Workshop on Climate, Water, Land, and Life in Monsoon Asia
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 太田 淳
2. 発表標題 1850-60年代の北スラウェシ・マナドにおける貿易構造の変容
3. 学会等名 2022年度京都大学東洋史研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田淳
2. 発表標題 ジャワにおける1920-21年の米危機 異常気象と糖業の影響
3. 学会等名 社会経済史学会第91回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田淳
2. 発表標題 東南アジア海域世界の貿易と移民
3. 学会等名 社会経済史学会第91回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林 和夫
2. 発表標題 植民地以前の西アフリカにおける布貨幣
3. 学会等名 日本金融学会2022年度春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 The British Atlantic Slave Trade and Indian Cotton Textiles: An Umbrella Model
3. 学会等名 XIXth World Economic History Congress
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 The World of Weavers in The Gambia in the 1970s
3. 学会等名 XIXth World Economic History Congress
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Lampung in the Eighteenth Century
3. 学会等名 International Conference and Cultural Event of Lampung 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall and Malaria in Jakarta in the 1910s
3. 学会等名 EuroSEAS 2021 Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rice Crisis in Colonial Java: A Preliminary Analysis of Climatic Influence on Agriculture in Tropical Asia
3. 学会等名 EAEH 2021 Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shoko Mizuno
2. 発表標題 Forestry and Indigenous Land Use in Postcolonial India
3. 学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 脇村 孝平
2. 発表標題 19世紀における海港検疫とグローバルな文脈-イギリスとオスマン帝国、そして日本
3. 学会等名 日韓歴史家会議「伝染病と歴史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Climatological factors in the 1920-21 crop failure in Java
3. 学会等名 International Workshop “Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia,”
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川 歩
2. 発表標題 インダス文明と社会進化 - 都市・文明・国家 -
3. 学会等名 社会進化の比較考古学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小泉 佑介・祖田 亮次
2. 発表標題 ポリティカル・エコロジー論の新たな展開 環境ガバナンスのリスケーリングに関する予備的考察
3. 学会等名 人文地理学会大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ayumu Konasukawa, Vasant Shinde and Nilesh Jadhav.
2. 発表標題 “Minor Objects from the Settlement Area at Rakhigarhi: Their Significance for Understanding the Chronology, the Context and the Interpretation of Harappan Culture in the Ghaggar Basin,”
3. 学会等名 Special Session on Rakhigarhi Archaeological Research Project, 7th International Congress of Society of South Asian Archaeology (SOSAA) (Webinar) O N L I N E (Zoom).
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川 歩
2. 発表標題 南アジアの(超)長期的発展経路 紀元前4千年紀後半から紀元前1千年紀半ばまで
3. 学会等名 日本南アジア学会第 33 回全国大会 The 33rd JASAS Annual Conference、京都大学 + オンライン (Zoom)。
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川 歩
2. 発表標題 「南アジア先・古代史の長期的展開について：前4千年紀後半から前1千年紀半ば」、パネル報告(代表：小茄子川歩)「南アジア前近代史の長期的展開をめぐって：前4千年紀後半から後2千年紀半ば Pre-Modern South Asian History: A Long-Term Perspective, c. 3500 B.C. & 1500 A.D.」
3. 学会等名 日本南アジア学会第 33 回全国大会 The 33rd JASAS Annual Conference、京都大学 + オンライン (Zoom)。
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川 歩
2. 発表標題 「インダス文明と「垂周辺」における社会進化 - パッファ・都市・文明・国家 - 」
3. 学会等名 シンポジウム「社会進化の比較考古学」(主催：シンポジウム「社会進化の比較考古学」実行委員会オンライン (Zoom))。
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大石 高志
2. 発表標題 移民を通じた接続ゲインの歴史的諸相：環インド洋地域と環太平洋地域(日本含む)
3. 学会等名 「近現代における環インド洋熱帯地域の複数発展経路 - 発展と低開発の複眼的視野の中で」2020年度研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大石 高志
2. 発表標題 英領インド期中央州における農林工関係：ピーリー製造業の台頭に伴う動態に即して
3. 学会等名 NIHUプロジェクト「南アジア地域研究」京都大学中心拠点 研究グループ 1-B「南アジアの開放経済」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 脇村 孝平
2. 発表標題 疫病の地政学 - コレラ・パンデミックと検疫問題 (1870s ~ 1920s)
3. 学会等名 アジア政経学会秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川 歩・佐藤 孝宏
2. 発表標題 インド亜大陸における潜在的農業生産力 / 人工扶養力 近現代南アジアの環境史研究についてのリフレクション
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ1-B「南アジアの開放経済」第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田 淳
2. 発表標題 19世紀半ばの蘭印・北スラウェシにおける商業作物生産 - 強制栽培制度下におけるコーヒーとココヤシ栽培の農民主導型発展 -
3. 学会等名 経済史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 “Climatological factors in the 1920-21 crop failure in Java”
3. 学会等名 International Workshop “Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia,” Keio University.
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 太田 淳
2. 発表標題 「19世紀半ばの蘭印・北スラウェシにおける商業作物生産強制栽培制度下におけるコーヒーとココヤシ栽培の農民主導型発展 - 」
3. 学会等名 経済史研究会，東京大学大学院経済学研究科
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大石 高志
2. 発表標題 コメント：ネットワークと地域：インド人商人と神戸/兵庫県に関する研究からの視座
3. 学会等名 社会経済史学会 第88回全国大会 パネル「近現代横浜における国内外移民集団の展開について：浙江・江蘇系裁縫業者、インド系シンディ商人、北陸出身浴場業者の事例検討から」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木越 義則
2. 発表標題 世界の海上ハイウェイ - 近代に貨物はどこにどれだけ運ばれたのか -
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究班「転換期中国における社会経済制度」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木越 義則
2. 発表標題 日本統治下満州の社会経済 - 愛新覚羅、満鉄、張学良
3. 学会等名 一般社団法人キタン会・関西キタン会講演会（中央電気倶楽部）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木越 義則
2. 発表標題 中国の市場・貿易を通じて見る第一次世界大戦前後の変容と連続性
3. 学会等名 東アジア近代史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小茄子川 歩
2. 発表標題 南アジアの（超）長期的発展径路 紀元前4千年紀後半から紀元前1千年紀半ばまで
3. 学会等名 2019年度「環インド洋熱帯」科研・第二回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤 孝宏
2. 発表標題 『環インド洋熱帯地域における農業生産性の規定要因 - インド亜大陸を中心に -
3. 学会等名 「環インド洋熱帯」科研・第一回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “ The Great Acceleration in Asia: Beyond ‘ Coal and North America ’ ”
3. 学会等名 Convergence/Divergence: New Approaches to the Global History of Capitalism Conference, Brasenose College, Oxford
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉原 薫
2. 発表標題 「 アジア・アフリカの人口扶養力とインド洋交易圏、1800 - 1950年 」
3. 学会等名 「 近現代における環インド洋熱帯地域の複数発展径路 発展と低開発の複眼的視野の中で 」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Soda R.
2. 発表標題 Historical development of flood control and water use in and around Japan: 150 years of river management technology
3. 学会等名 UMS-TUFS Exchange Lecture on Culture and Society of Asia and Africa. Universiti Malaysia Sabah, Kota Kinabalu, Malaysia (August 8, 2019)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 祖田 亮次・生方 史数・葉山 アツコ
2. 発表標題 Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India,
3. 学会等名 Globalizing Life World and Transformation of Political Sphere (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 脇村 孝平
2. 発表標題 熱帯アフリカのマラリア - 『獲得免疫』問題を中心として
3. 学会等名 2019年度「環インド洋熱帯」科研・第一回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 脇村 孝平
2. 発表標題 経済発展における「貿易」と「農業」の役割 - W・A・ルイスの認識をめぐって
3. 学会等名 2019年度「環インド洋熱帯」科研・第二回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 脇村 孝平
2. 発表標題 経済発展における「貿易」と「農業」の役割 - W・A・ルイスの認識をめぐって
3. 学会等名 2019年度「環インド洋熱帯」科研・第二回研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計37件

1. 著者名 古田和子・太田淳 (編)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 アジア経済史(上)	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 「海へ下るコーヒーと山に登るココヤシ - 19世紀ミナハサにおける商品作物栽培と人口増 - 」脇村孝平編著『近現代熱帯アジアの経済発展 - 人口・環境・資源 - 』	

1. 著者名 脇村 孝平(編・著)、佐藤 孝宏、祖田 亮次、小茄子川 歩、谷口 謙次、田辺 明生、杉原 薫、太田 淳、神田 さやこ、小林 和夫、木越 義則、藤田幸一	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 317
3. 書名 近現代熱帯アジアの経済発展 - 人口・環境・資源	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 「グローバリゼーション」前川一郎編『歴史学入門 - だれにでもひらかれた14講』	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 商業の時代の東南アジア - イスラームの浸透と多様な展開」久志本裕子・野中葉編著『東南アジアのイスラームを知るための64章』	

1. 著者名 Kazuo Kobayashi	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 142
3. 書名 'West Africa and France in the Rebuilding of Pondicherry after 1816: The Case of Textile Industry', in Redhika Seshan and Ryuto Shimada, eds., Connecting the Indian Ocean World: Across Sea and Land	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 「グローバル貿易と東南アジア海域世界の「海賊」」 弘末雅士・吉澤誠一郎編 『岩波講座世界歴史12 東アジアと東南アジアの近世 15～18世紀』	

1. 著者名 Giorgio Riello and Kazuo Kobayashi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 UNESCO and China National Silk Museum	5. 総ページ数 413
3. 書名 'The Global Success of Cotton', Zhao Feng and Marie-Louise Nosch, eds., Textiles and Clothing: Thematic Collection of the Cultural Interactions along the Silk Roads	

1. 著者名 荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、富谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、安村 直己、吉澤 誠一郎、小林和夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 277
3. 書名 岩波講座世界歴史11 構造化される世界	

1. 著者名 藤田幸一、大石高志、小茄子川歩(編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人間文化研究機構 ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「南アジア地域研究」京都大学 中心拠点・研究グループ1	5. 総ページ数 192
3. 書名 南アジアの人口・資源・環境	

1. 著者名 アンソニー・リード著、太田淳・長田紀之(監訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 395
3. 書名 世界史のなかの東南アジア - 歴史を変える交差路 上	

1. 著者名 アンソニー・リード著、太田淳・長田紀之(監訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 376
3. 書名 世界史のなかの東南アジア - 歴史を変える交差路 下	

1. 著者名 吉澤誠一郎(監修)、石川博樹・太田淳・太田信宏・小笠原弘幸・宮宅潔・四日市康博(編著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 「華人の世紀」再考 - 華人だけが主役だったのか」『論点・東洋史学 - アジア・アフリカへの問い158』	

1. 著者名 吉澤誠一郎(監修)、石川博樹・太田淳・太田信宏・小笠原弘幸・宮宅潔・四日市康博(編著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 「植民地期東南アジアの社会変容 - 植民地支配は何をかえたのか」『論点・東洋史学 - アジア・アフリカへの問い158』	

1. 著者名 田辺 明生、竹沢 泰子、成田 龍一(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 422
3. 書名 環太平洋地域の移動と人種統治から管理へ、遭遇から連帯へ	

1. 著者名 クリスチャン W マクミレン,、脇村 孝平(監訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ニュートンプレス	5. 総ページ数 218
3. 書名 パンデミック	

1. 著者名 社会経済史学会(編)、大石高志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 716
3. 書名 「印僑」『社会経済史学事典』444-445	

1. 著者名 Tanabe Akio and Koichi Fujita	4. 発行年 2021年
2. 出版社 The Center for Southeast Asian Studies	5. 総ページ数 162
3. 書名 "Transformation of the Socio-economic Structure in a Village Society in Odisha." In Mid-term Report of the Grant-in-Aid Research Project "New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economy: Integrated Study on the Dynamism of Mobility in Land and Labor" (FY2016-21), edited by Koichi Fujita, 91-125.	

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 270
3. 書名 "From Sharing Risks to Taking Risks: The System of Entitlements and its Fragmentation in Eighteenth and Nineteenth Century Orissa". In Sustainable Development in India: Groundwater Irrigation, Energy Use, and Food Production, edited by Koichi Fujita and Tsukasa Mizushima, pp. 38-65	

1. 著者名 水内 俊夫・鴨河 貴澄、祖田 亮次	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪市立大学都市研究プラザ	5. 総ページ数 155
3. 書名 ひとつの日高川流域誌 多生業に生きる寒川の150年	

1. 著者名 大野 昭彦(編)、藤田幸一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 『放送大学教育振興会』	5. 総ページ数 256
3. 書名 開発経済学: アジアの農村から	

1. 著者名 田辺 明生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学アジア藝文書院	5. 総ページ数 109
3. 書名 「なぜアーツか、いかなるアーツか」『アーツの再定義』40-46	

1. 著者名 田辺 明生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学アジア藝文書院	5. 総ページ数 360
3. 書名 「人新世 (Anthropocene) の世界人間学」『世界人間学宣言』34-50	

1. 著者名 高井 亨(編)、甲田紫乃(編)、谷口謙次、相川 泰、足利裕人、田島正喜、角野貴信、柚洞一央、連 宜萍、竹内由佳、中尾悠利子、佐藤 伸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 「歴史からみた環境と経済開発」『SDGsを考える 歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』15-30	

1. 著者名 秋田 茂(編)、脇村 孝平(編)、木下 太志、村山 聡、友部 謙一、宮崎 千穂、勝田 俊輔、小浜 正子、大泉 啓一郎、永島 剛、竹田 美文、花島 誠人、廣川 和花、高林 陽展、磯部 裕幸、千葉 芳広、飯島 渉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 365
3. 書名 人口と健康の世界史	

1. 著者名 脇村 孝平(監修)、造事務所	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日経BP	5. 総ページ数 301
3. 書名 10の「感染症」からよむ世界史	

1. 著者名 木越 義則、堀和生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 380
3. 書名 東アジア経済史	

1. 著者名 水野 祥子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 264
3. 書名 エコロジーの世紀と植民地科学者 イギリス帝国・開発・環境	

1. 著者名 水野 祥子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 264
3. 書名 エコロジーの世紀と植民地科学者 イギリス帝国・開発・環境	

1. 著者名 Atsushi Ota	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 313
3. 書名 “Role of State and Non-State Networks in Early-Modern Southeast Asian Trade.” In Kaoru Sugihara and Keijiro Otsuka (eds.), Paths to the Emerging State in Asia and Africa.	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 443
3. 書名 「バタヴィア ハイブリッド・シティの発展と変容」古田和子編 『都市から学ぶアジア経済史』	

1. 著者名 Chi-cheung Choi, Tomoko Shiroyama, Takashi Oishi ed.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Brill(Leiden)	5. 総ページ数 356
3. 書名 Chinese and Indian Merchants in Modern Asia : Networking Businesses and the Formation of a Regional Economy	

1. 著者名 堀和生(編), 萩原充(編), 久保亨, 浅野豊美, 谷ヶ城秀吉, 小堀聡, 朱蔭貴, 秋田茂, 林彦櫻, 木越義則, 富澤芳亜, 加島潤, 峰毅, 皇甫秋実, 丸川知雄, 巖善平, 林采成, 洪紹洋, 橘川武郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 466
3. 書名 “世界の工場” への道	

1. 著者名 日本農業経済学会(編)、藤田 幸一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 804
3. 書名 「人口と農業」 『農業経済学事典』 22-23	

1. 著者名 Kazuo Kobayashi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 278
3. 書名 Indian Cotton Textiles in West Africa : African Agency, Consumer Demand and the Making of the Global Economy, 1750-1850	

1. 著者名 Atsushi Kobayashi and Kaoru Sugihara	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 23
3. 書名 “ Changing Patterns of Sarawak Exports, c.1870 to 2013 ” , in Noboru Ishikawa and Ryoji Soda eds., Anthropogenic Tropical Forests: Human—Nature Interfaces on the Plantation Frontier	

1. 著者名 ISHIKAWA, N. and SODA, R. eds.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 639
3. 書名 Anthropogenic Tropical Forests: Human&Nature Interfaces on the Plantation Frontier	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神田 さやこ (Kanda Sayako) (00296732)	慶應義塾大学・経済学部(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	木越 義則 (Kigoshi Yoshinori) (00708919)	名古屋大学・経済学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	小林 和夫 (Kobayashi Kazuo) (00823189)	早稲田大学・政治経済学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	小茄子川 歩 (Konasukawa Ayumu) (20808779)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授 (14301)	
研究分担者	田辺 明生 (Tanabe Akio) (30262215)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	祖田 亮次 (Soda Ryoji) (30325138)	大阪市立大学・大学院文学研究科・教授 (24402)	
研究分担者	水野 祥子 (Mizuno Shoko) (40372601)	駒澤大学・経済学部・教授 (32617)	
研究分担者	太田 淳 (Ota Atsushi) (50634375)	慶應義塾大学・経済学部(三田)・教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉原 薫 (Sugihara Kaoru) (60117950)	総合地球環境学研究所・プログラム研究部・客員教授 (64303)	
研究分担者	大石 高志 (Oishi Takashi) (70347516)	神戸市外国語大学・外国語学部・教授 (24501)	
研究分担者	谷口 謙次 (Taniguchi Kenji) (70570323)	公立鳥取環境大学・経営学部・講師 (25101)	
研究分担者	藤田 幸一 (Fujita Koichi) (80272441)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授 (14301)	
研究分担者	大橋 厚子 (Ohashi Atsuko) (80311710)	名古屋大学・国際開発研究科・教授 (13901)	
研究分担者	佐藤 孝宏 (Sato Takahiro) (80444488)	弘前大学・農学生命科学部・准教授 (11101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------